

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：32510

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K01510

研究課題名（和文）日韓防衛協力に関する研究—冷戦後から現在まで

研究課題名（英文）Japan-ROK Defense Cooperation -from the post-Cold War to the present

研究代表者

阪田 恭代（Sakata, Yasuyo）

神田外語大学・グローバル・リベラルアーツ学部・教授

研究者番号：60306412

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では冷戦後、主に1990年代から現在に至る日韓防衛交流・協力の軌跡を振り返り、その目的、成果と課題、進展と停滞の原因を考察した。研究対象の時期を1990年代、2000年代、2010年代に区分し、各期について、文献調査、日韓の関係者（政策担当者・実務者、研究者など）のインタビューを実施し、主な政策・論点をめぐり、政策関係者の思惑を調査し、事実と照らし合わせて検証を進めた。研究成果の一部は、研究分担者による論文、報告、講演等の他に、学会パネルで公表した。期間終了後、本研究の成果をまとめて、書籍として出版する予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、日本の安全保障協力関係の中でも最も研究が遅れている日韓防衛・安全保障協力について、冷戦後から現在に至るまでの政策史・通史をまとめ、より客観的かつ冷静に考えるための土台を提供することにある。政策のテキスト分析のみならず、政策関係者のインタビューで得られた現場の「声」も伝えた。講演や学会等における本研究の公表を通して、学術的かつ社会的に一定の理解を深めることに貢献できた。書籍出版を含め、今後も成果の公表を進める。

研究成果の概要（英文）： The bilateral Japan-Republic of Korea (ROK) relationship experienced one of the most tumultuous years in 2018-2019, which led to a crisis not only in diplomatic but also defense and security relations. This study reviewed Japan-ROK defense exchange and cooperation from the post-Cold War period to the present, and examined its objectives, achievements and tasks, to understand the cycle of progress and regress in bilateral relations and provide a more balanced understanding for future relations. Japan-ROK defense relations were divided into three periods, the 1990s (progress), 2000s (stagnation), 2010s (reboot and regress). The research included not only document research, but also interviews of practitioners, former defense and security officials and researchers mainly in Japan and the ROK. Research results were shared in academic journals and magazines, think tanks and academic associations, and public lectures. Book publication is planned.

研究分野：国際関係

キーワード：日韓関係 日米韓 安全保障 同盟 防衛交流 防衛協力 自衛隊 韓国軍

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

冷戦後の日韓安全保障協力、特に防衛交流と協力は一進一退の軌跡をたどり、現在に至っている。その30年余りの歴史の中で最大の危機を迎えたのが2018年から2019年にかけて日韓関係が悪化した時期である。日韓の歴史・防衛・経済をめぐる不和は日米韓安全保障協力にも波及した。国際情勢が厳しい中、共に米国の同盟国である日韓両国の関係が悪化していることは専門家の間でも憂慮されていた。このような社会的背景を踏まえて、日韓安全保障協力について冷静かつ客観的に考えるための材料を提供し、研究成果を社会に還元することを目的に、本研究は開始された。

学術的にも日韓安全保障協力、特に防衛交流と協力に関する研究はまだ浅い。戦後日韓関係に関する数多くの学術的な研究はあるが、日韓の安全保障協力や防衛協力に関する研究は、他の分野に比べれば、まだ発展途上にある。安全保障研究においても、日米や日豪、日中などに比べても手薄である。日米同盟と米韓同盟に関する研究は進んでいるが、日韓安全保障協力や防衛協力に関する研究は極めて少ない。その学術的なギャップを埋めるために、本研究は開始された。

2. 研究の目的

以上の社会的かつ学術的背景を踏まえて、本研究では、戦後、とくに冷戦後の日韓安全保障協力・防衛協力はどのような経緯をたどり、どのような成果と課題があり、今後どのような展望ができるのかという問いを設定し、安全保障協力としての日韓防衛協力の制約と可能性について考察することを目的とした。

冷戦後の日韓防衛交流・協力の軌跡を振り返り、その目的、成果と課題、進展と停滞の原因を探り、今後について展望する。具体的には、下記の通り、研究対象の時期を1990年代(I期)、2000年代(II期)、2010年代(III期)に区分し、各期の防衛交流・協力の特徴、政策・論点を特定し、日韓(米)の思惑、その共通点や相違点を明らかにする。その上で2020年代(IV期)への含意と今後について展望する。

冷戦後の日韓防衛交流・協力の時期区分は以下の通りとした。

I 期 (1990年代) 日韓防衛交流・協力の始まり・拡大

1990年代(前期)同盟「漂流」、「国防白書」表記問題、日韓信頼醸成

1990年代(中期)北朝鮮問題への対応、同盟活性化(ガイドライン)、防衛当局間対話

1990年代(後期)防衛交流の制度化 1998年日韓共同宣言・日韓安保対話・共同訓練等

II 期 (2000年代) 日韓防衛交流・協力の停滞・縮小・回復

2000年代(前期)(2000-2004年) 南北首脳会談、日韓防衛交流縮小、国際平和協力

2000年代(中期)(2005-06年) 竹島問題をめぐり日韓対立、交流中断

2000年代(後期)(2007-08年) 北朝鮮核実験(初)(2006年)、防衛交流復活

III 期 (2010年代) 日韓防衛協力の復活・拡大・停滞

2010年代(前期)(2008/09年)2010—2012年、同盟再定義・拡大、日韓戦略・防衛協力

(2009年「日韓防衛交流意図表明書」、2012年GSOMIA締結失敗)

2010年代(中期)2013—2016/2017年 米りバランス政策、北朝鮮核・ミサイル問題、日米韓実務者対話から参謀長・閣僚レベル対話、共同演習、2014年TISA(日米韓情報共有協定)、

2016年日韓GSOMIA(軍事情報包括保護協定)締結

2010年代(後期)(2018年~2019年)米朝・南北対話、日韓不和、日韓防衛協力停滞・危機
IV期(2020年代) 日韓防衛交流・協力の回復へ

2020~21年 米バイデン政権の登場、同盟重視とインド太平洋戦略の推進、日韓関係回復の兆し

2022年~現在 尹錫悦(ユン・ソンニョル)政権の登場、日米韓協力の推進(2023年キャンプデービッド・サミット)、日韓防衛交流の再開と協力回復へ

3. 研究の方法

研究方法としては(1)研究会、(2)インタビュー、(3)文献調査・収集の三本柱で進めた。(1)研究会は、毎年度、数次にわたり実施し、上記の時期区分(I期、II期、III期)に沿って、各時期の特徴を検討し、担当セクションについて報告を行った。各時期において対象とすべきインタビュー対象者と質問リストを検討し、協議して決めた。(2)インタビューは、共同で、あるいは個別に実施した。主に日韓両国における防衛・安全保障政策に関わった実務者や研究者の意見聴取を行った。実施したインタビューについては研究会で情報を共有した。(3)文献調査と収集は、上記の時期区分に沿って進めた。日本外交史料館、立命館大学、韓国国家記録院、韓国国会図書館、韓国外交部外交史料館、ソウル大学、慶南大学校北韓大学院大学、韓国国家未来研究院、慶熙大学附設国際地域研究院日本学研究所などにおいて文献収集を行い、研究者との意見交換、インタビューも実施した。防衛省の行政文書開示請求も行き、資料収集を進めた。

なお、本研究期間が新型コロナウイルス感染症の時期とほぼ重なり、国内移動と海外渡航が制限され、インタビューと文献調査・収集を予定通りに進められなかったが、オンライン・ツールも活用し、できる限り作業を進めた。最終年度(延長年度)は感染症規制も解かれ、対面のインタビューや出張・調査を進め、学会などでも研究成果を発表した。

4. 研究成果

研究成果は、国内外において論文の公刊や学会発表などを通して公表した。最終年度(2023年度)では国際安全保障学会において部会パネル「日韓安全保障協力を振り返るー韓国ファクターから考える」を企画・開催し、研究成果の一部を発表した。阪田恭代(神田外語大学)の司会で、報告者として伊藤弘太郎(法政大学)、富樫あゆみ(東洋英和学院大学)、李奇泰(イ・ギテ)(韓国統一院)、討論者として道下徳成(政策研究大学院)、朴榮濬(パク・ヨンジュン)(韓国国防大学)が登壇した。日本と韓国の研究者を交えて、2000年代から現在に至る日韓安全保障協力の成果と課題について議論した。特に2000年代以降の韓国の政権交代(保守系と進歩系)を念頭に、日韓安全保障協力に対する韓国ファクターの影響に焦点を当てた。伊藤報告「韓国の保守系からみた日韓安全保障協力」と富樫報告「韓国の進歩系からみた日韓安全保障協力」では韓国の保守系と進歩系の安全保障観の相違点とともに共通点も指摘し、李報告「韓国のインド太平洋戦略と日韓安全保障協力への含意」では、尹錫悦(ユン・ソンニョル)政権(保守系)のインド太平洋戦略と文在寅(ムン・ジェイン)政権(進歩系)の「新南方政策」を比較し、その相違点と共通点を指摘した。以上、三つの報告を通して韓国を多面的に捉えることの必要性を指摘し、安全保障研究者と実務者との議論を通して、近年、回復しつつある日米韓や日韓安保協力の可能性や課題について理解を深めるという目的を達成した。今後は、本研究で行った1990年

代から2000年代以降の調査を踏まえて、日韓防衛交流と協力に関する政策史を書籍としてまとめ、実務者、研究者、社会に成果を還元していく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Yasuyo Sakata	4. 巻 2
2. 論文標題 Camp David and US-ROK-Japan Trilateral Security and Defense Cooperation: Consolidating the Northeast Asia Anchor in the Indo-Pacific	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Korea Policy (Korea Economic Institute of America)	6. 最初と最後の頁 Website
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 阪田恭代	4. 巻 673号
2. 論文標題 「インド太平洋2.0」と「日米韓2.0」 尹大統領の首脳外交の背景にあるもの	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阪田恭代	4. 巻 3月
2. 論文標題 韓国のインド太平洋ピボット 「インド太平洋2.0」における日韓・日米韓の戦略的連携	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本国際問題研究所 (JIIA) 研究レポート	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yasuyo Sakata	4. 巻 2
2. 論文標題 Camp David and the US-Japan-ROK Trilateral Security and Defense Cooperation: Consolidating the Northeast Asia Anchor in the Indo-Pacific	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Korea Policy (Korea Economic Institute of America)	6. 最初と最後の頁 ----
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 富樫あゆみ	4. 巻 23号
2. 論文標題 脅威均衡戦略としての日韓・日米韓安全保障協力：脅威均衡同盟説からの考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代韓国朝鮮研究	6. 最初と最後の頁 15-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤弘太郎	4. 巻 23号
2. 論文標題 韓国の外交安全保障政策における連続性 政権交代によっても変わらないボトムラインは何か	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代韓国朝鮮研究	6. 最初と最後の頁 38-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤弘太郎	4. 巻 51巻4号
2. 論文標題 韓国防衛産業躍進の成功要因と国際社会への影響	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国際安全保障	6. 最初と最後の頁 72-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阪田恭代	4. 巻 none
2. 論文標題 第9章 インド太平洋時代の日米韓安全保障協力 プノンペン「三か国パートナーシップ」声明と今後の課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本国際問題研究所・研究報告「『大國間競争の時代』の朝鮮半島と秩序の行方」(令和4年度 朝鮮半島研究会)	6. 最初と最後の頁 155-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasuyo Sakata	4. 巻 none
2. 論文標題 Japan's National Security Strategy & the Two Koreas	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 米Stimson Center/Japan's Security Policy After the New National Security Strategy	6. 最初と最後の頁 none
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 阪田恭代	4. 巻 3
2. 論文標題 「グローバル・コリア2.0」を目指す韓国・尹錫悦政権	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 RIPS (平和・安全保障研究所) リポート	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤弘太郎	4. 巻 659
2. 論文標題 日米韓安全保障協力の復元をめざす尹錫悦次期政権	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤弘太郎	4. 巻 662
2. 論文標題 急速に復元する米韓軍事協力 日米韓安全保障協力再構築への布石	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤弘太郎	4. 巻 665
2. 論文標題 米韓間で拡大抑止力の具体化をめくり進展、北朝鮮はミサイル発射で応酬	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤弘太郎	4. 巻 12
2. 論文標題 台湾有事に関する韓国での議論	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 北東アジア情勢研究会コメンタリー(NPI)	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富樫あゆみ	4. 巻 7
2. 論文標題 「自由で開かれたインド太平洋」に同調する韓国と韓豪・韓印関係の深化	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 北東アジア情勢研究会コメンタリー(NPI)	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakata, Yasuyo	4. 巻 March-April Issue
2. 論文標題 The US-Japan-ROK Trilateral in the Indo-Pacific Era: Strategic Alignment or Still in Flux? (招待あり)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asan Forum	6. 最初と最後の頁 ウェブ版
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 阪田恭代	4. 巻 67
2. 論文標題 「日米韓」は立て直せるか バイデン外交と「インド太平洋時代」への課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阪田恭代	4. 巻 3-4
2. 論文標題 米韓同盟の変容と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 安全保障研究 (鹿島平和研究所・安全保障外交政策研究会)	6. 最初と最後の頁 27-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤弘太郎	4. 巻 2021-4-11
2. 論文標題 日本が知らない米韓関係のファクトフルネス (前編) 文在寅政権の対インド・ASEAN外交を評価するアメリカ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際情報ネットワーク分析IINA	6. 最初と最後の頁 ウェブ版
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤弘太郎	4. 巻 1
2. 論文標題 台湾有事と韓国 米国の思惑に対する韓国の警戒感	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北東アジア情勢研究会コメンタリー (中曽根平和研究所)	6. 最初と最後の頁 ウェブ版
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計30件（うち招待講演 28件 / うち国際学会 12件）

1. 発表者名 伊藤弘太郎
2. 発表標題 韓国の保守系からみた日韓安全保障協力
3. 学会等名 国際安全保障学会（2023年 年次大会）慶應義塾大学（三田キャンパス）部会「日韓安全保障協力を振り返る－韓国ファクターから考える」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 富樫あゆみ
2. 発表標題 韓国の進歩系からみた日韓安全保障協力
3. 学会等名 国際安全保障学会（2023年 年次大会）慶應義塾大学（三田キャンパス）部会「日韓安全保障協力を振り返る－韓国ファクターから考える」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 崔慶原
2. 発表標題 米中接近と日韓安全保障関係 抑止と外交の調和は可能だったのか
3. 学会等名 国際戦史フォーラム（防衛研究所）（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 伊藤弘太郎
2. 発表標題 防衛産業サプライチェーンにおける日本と韓国
3. 学会等名 Stockholm Center for South Asian and Indo-Pacific Affairs, Institute for Security and Development Policy（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 伊藤弘太郎
2. 発表標題 韓国防衛産業 我が国へのインプリケーション
3. 学会等名 国際安全保障産業協会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 阪田恭代
2. 発表標題 Japan's Views on US-ROK-Japan Trilateral Security Cooperation
3. 学会等名 CNAS Peninsula Diplomacy Group (Seoul)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 阪田恭代
2. 発表標題 インド太平洋時代の日米韓関係
3. 学会等名 第108回 東西サランバン「韓日知識人セミナー」（ソウル）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 阪田恭代
2. 発表標題 「インド太平洋2.0」と「日米韓2.0」 日韓協力を考える戦略環境
3. 学会等名 CFIEC（国際経済連携推進センター）セミナー 「グローバル経済の中の日本と韓国」日本の戦略的視点から模索」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 阪田恭代
2. 発表標題 インド太平洋時代の日米韓安全保協力
3. 学会等名 第 31 回日韓・韓日フォーラム（ソウル）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 阪田恭代
2. 発表標題 韓国のインド太平洋シフト インド太平洋2.0と日米韓2.0の文脈において
3. 学会等名 （一）平和・安全保障研究所「自由で開かれたインド太平洋の実現に向けた取り組み」名古屋大学院情報学研究科附属グローバルメディア研究センター、名古屋大学東山キャンパス（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 阪田恭代
2. 発表標題 日韓・日米韓協力の現状と可能性 日本側の視点から
3. 学会等名 日本国際問題研究所・世宗研究所（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 阪田恭代
2. 発表標題 インド太平洋時代の日米韓協力 キャンプ・デービッド会談の後
3. 学会等名 アジア太平洋イニシアチブ、アサン政策研究院（韓国）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yasuyo Sakata
2. 発表標題 Camp David and the U.S.-Japan-ROK Trilateral: Security and Defense Cooperation in the Indo-Pacific
3. 学会等名 Korea Economic Institute and University of Washington, Center for Korea Studies [Seattle, WA], " From Security Threats to Emerging Tech: U.S-Japan-South Korean Trilateral Relations " (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 阪田恭代
2. 発表標題 韓国・ユン次期政権の外交・安全保障政策
3. 学会等名 平和安全保障研究所 / 月例研究会 (4月) (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yasuyo Sakata
2. 発表標題 Japan's NSS and the Korean Peninsula
3. 学会等名 米Stimson Center/Japan ' s New National Security Strategy: Northeast Asia (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 阪田恭代
2. 発表標題 「日韓2.0」と「日米韓2.0」 インド太平洋時代の戦略的協力
3. 学会等名 韓日新時代フォーラム (韓国・東西大学) (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 崔慶原
2. 発表標題 人流・知流・物流から考える日韓関係
3. 学会等名 常葉大学公開講座「人の移動から知る世界」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤弘太郎
2. 発表標題 韓国新政権の外交安保政策を展望する 文在寅政権に対する評価をもとに
3. 学会等名 鹿島平和研究所・国際政治経済研究会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤弘太郎
2. 発表標題 米韓防衛産業協力の進展と背景
3. 学会等名 国際安全保障学会・第15回定例研究会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤弘太郎
2. 発表標題 未来の国際秩序と日韓関係
3. 学会等名 国会未来研究院国際戦略研究センタ　・韓日未来対話(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤弘太郎
2. 発表標題 急速な日米韓安保協力改善の要因
3. 学会等名 立命館大学東アジア平和協力センター・コリア研究センター/韓関係の改善における日韓両政府の課題（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤弘太郎
2. 発表標題 オーストラリアから見た日韓関係
3. 学会等名 中曽根康弘世界平和研究所・北東アジア情勢研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阪田恭代
2. 発表標題 日韓協力関係の修復に向けて 新たな戦略環境の中で
3. 学会等名 第36回日韓会議（日本国際問題研究所・韓国外交研究院）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 崔慶原
2. 発表標題 日韓関係の変容 新しい関係の構築は可能か
3. 学会等名 九州韓国研究者フォーラム主催シンポジウム 『1965年体制の現在（招待講演）』
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sakata, Yasuyo
2. 発表標題 “ Revisiting US-Japan-Korea Trilateral Cooperation:Tasks in the Biden Era
3. 学会等名 The Korean Association of International Studies (KAIS) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sakata, Yasuyo
2. 発表標題 US-ROK-Japan Trilateral Cooperation
3. 学会等名 The Sejong Society of Washington D.C. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤弘太郎
2. 発表標題 台湾有事を韓国はどう見ているか
3. 学会等名 北東アジア情勢研究会 (中曽根平和研究所) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤弘太郎
2. 発表標題 複雑化する北東アジアの戦略環境
3. 学会等名 第12回北東アジア協力国際シンポジウム (慶應義塾大学東アジア研究所現代韓国研究センター、東西大学中国研究センター、上海社会科学 院国際問題研究センター) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤弘太郎
2. 発表標題 国内政治・経済的要因が日韓関係に及ぼす影響日韓関係：日本の視点から
3. 学会等名 日韓次世代フォーラム（世宗研究所日本研究センタ）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤弘太郎
2. 発表標題 韓国新政権発足後の朝鮮半島情勢を占う - 新政権の外交安全保障政策
3. 学会等名 NPI「知りたいことを聞く」シリーズ(中曽根平和研究所)（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 伊藤弘太郎	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 183
3. 書名 韓国の国防政策 「強軍化」を支える防衛産業と国防外交	

1. 著者名 渡部恒雄、西田一平太編（伊藤弘太郎 分担執筆：5章、11章）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 防衛外交とは何か 平時における軍事力の役割	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	崔 慶原 (Choi Gyunwon) (00637382)	常葉大学・外国語学部・教授 (33801)	
研究分担者	富樫 あゆみ (Togashi Ayumi) (50783966)	東洋英和女学院大学・国際社会学部・准教授 (32718)	
研究分担者	伊藤 弘太郎 (Ito Kotaro) (80838053)	法政大学・人間環境学部・准教授 (32675)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関